

団結懇親会で 新入組合員を紹介

1日目の大会終了後には、大会代議員や来賓の方も参加していただき団結懇親会を開催しました。高橋委員長の乾杯で懇親会がスタートし、その後、2020~23年度の新規採用者等の加入者紹介があり、それぞれ自己紹介をし、会場から拍手喝采を浴びていました。



2020~2023新入組合員



米代西部: 平泉代議員



湯沢: 山田代議員

「一頁からつづく」
が大事なのに、それを防ぐ体制や環境作りをしていない。4月異動の者です。メンタルで休職している職員がおり、メンタル的に職場全体が大丈夫かなと心配になっている。



山形: 大戸代議員



置賜: 本城谷代議員

「地本からの答弁」
●地本も同様の考えであり、責任ある当局の対応を求めている。
「分会からの質問・意見」
●組合費の問題はベテランの方ほど高額になり負担が大きくなり、若年層にも断る理由、脱退の理由になつていく。
●人事異動のタイミングで組合を脱退しているのが多い印象。脱退理由に、組合費が高いことや組合活動のメリットが挙げられており、組合費の見直しは出来ないか。
●人事異動が3年サイクルを基本に実施されているが、これにより組合の組織体制が組めない状況にある。

「その他」
「分会からの質問・意見」
●組合として様々な要求をしているが、結果としてどうなのか分からない。運動について減らしていくことも検討すべきではないか。
●大幅賃上げと言われているが、物価上昇に追いついておらず実感できる状況にない。

今後に向けてどうするべきか議論が必要。
●組織対策について、3年の人事では組織がまわらない。青女の運動も含め過去のやり方にこだわらず進めることも検討してもらいたい。分会大会は開催出来なくても、組合員が集まり何でもいいので言い合えることから取り組んでもらいたい。



高橋青年女性委員長



秋田: 菅原代議員

●退職金のピーク時特例の関係で、退職金が100万円以上下げられる。
「地本からの答弁」
●運動の見直しについて、地本として必要な運動として提起しているが、本当に不要なものであれば議論して消していく必要がある。
●大幅賃上げについて、実感できるものでないこと全国大会で発言する。

第19回地本大会

高橋執行委員長 あいさつ



高橋委員長

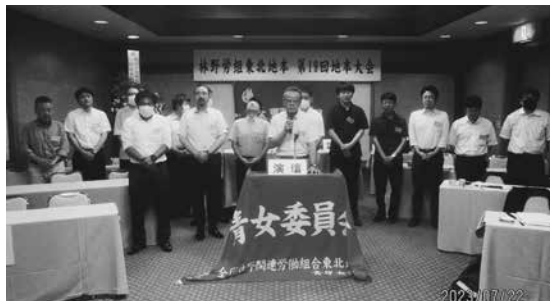
第19回地本大会に結集された分会代議員、新入組合員傍聴者の皆さん、ありがとうございます。また、先日の大雨被害を受け、それぞれの立場で復旧に携わって居る中、大会に駆けつけて頂いた、来賓の皆様感謝申し上げます。
今大会は2019年の大会以来のフルスペックの開催。この間コロナウィルスの影響で組合活動にもかなりの影響があったが、分会・職場段階で踏ん張ってくれた、分会役員、組合員に改めて感謝を申し上げます。開会に当たって5点ほど申し上げます。
1点目、4月に実施された統一地方選挙について、

の基本的に係る重要政策の変更、疑念(軍事大国化路線、原発再稼働課題等)を追及するとともに、批判をかわす答弁に終始し、説明責任を果たさずともせず、強行しようとする政府・与党に対し、所管大臣への不信任決議、委員会議長への不信任決議を提出し抗戦したものの、与党と野党の一部の賛成多数で法案は可決・成立した。また、強権的な国会運営に終始する岸田内閣に対する内閣不信任案を提出しましたが、これも与党と野党の一部の反対多数で否決され6月21日に国会は閉会となった。この内閣不信任案を巡って首相の解散に係る判断が注目されたが、国会会期中での解散は見送られた。秋の臨時国会での解散も想定されるところであり、しっかりと取り組みを進めていきたい。
3点目、2023春闘の取り組みについて、30年ぶりの賃上げ水準となった。しかし、物価上昇には追いついておらず生活は厳しく、継続的な賃上げ闘争が必要。8月の人事院勧告への取り組み、秋期年末の定期闘争をしっかりと取り組む。

4点目、一般林政課題について、政府は、花粉症対策に関する閣僚会議で、スギ人工林を10年後に約2割減少させ、30年後に花粉の発生量を半減させることを目指す「対策の全体像」をまとめた。具体的には、スギ人工林の伐採面積を現在の5万haから7万haに拡大、事業の増大に伴う労働力不足の対策として、外国人労働者の受け入れ拡大が盛り込まれた。林野労組として、①スギの需給対策も含め、既存の業務・政策への影響、②現状の林業労働力育成・確保対策への影響。を危惧しており、その動向を注視するとともに、森林労連(全山労)と連携して取り組みを進めていく。
5点目、職場実態について、2013年の一般会計から10年経っても欠員は解消されず業務量は増加の一途。地本交渉を進めているが具体的に見える形で職場改善が進んでいない。労働組合として、誰もが安心して健康で働き続けることが出来る職場環境を作っていく使命がある。諦めることなく職場改善要求・交渉を進めていく。一方、4年のコロナ渦の中で組合の組織活動は大きく停滞してしまつた。2017年の地本組織財政確立委員会でも答申、確認されたことは、当時の組織率70%を維持していく条件として、脱退者を出さず、毎年新規採用者を全員組織化していくことでした。現状は大変厳しい状況です。組織活動の再構築に向けては、組合員と膝を交え、実態討論から要求の具体化と交渉を進めること。その過程をしっかりと組合員へ伝えていくことが大切であることを、今大会で確認していければと思つている。

新執行体制

執行委員長	高橋茂 (本局分会)
副委員長	古藤光 (秋田分会)
書記長(専従)	伊藤誠 (中央本部専従)
執行委員	成田篤 (中央本部専従)
執行委員	土佐浩 (岩手南部分会)
執行委員	佐藤誠 (三陸北部分会)
執行委員	高橋凌 (米代東部分会)
会計監査委員	柳山一 (米代東部分会)
選挙管理委員	小庄徹 (本局分会)



新役員



団結ガンパロー